

「患者を生きる」京ちゃん

昨日 30 日朝、いつものように新聞をめくると、最初見たページに京ちゃんが載っていた。朝日新聞の生活欄「患者を生きる 2713」である。「呼吸器とともに4」として、経験で広がる行動範囲という見出しがついている。

偶然ではあるが、どうも「テレパシー」のようなものを感じる。京ちゃんとの出会い、一昨年の大学祭のことなど、「偶然」が多すぎる。今日も外出先から愛用の iPad で京ちゃん宅にメールしたら、同じ時に京ちゃんお母さんが私宛にメールをしていたとのこと。これにも驚いた。

じつは違うテーマのレポートを書こうと思っていたが、急きょ変更して京ちゃんに。朝からなんだか、「ウキウキ」気分になった。最近では珍しいことだ。これも「京ちゃん効果」かもしれない。

写真は記事掲載の京ちゃん 2007 年春である。イチゴ狩りを楽しむ京ちゃんだ。ブログなどで、いくつか京ちゃんの写真を見てきたが、こんなに笑顔の京ちゃんのはじめてだ。京ちゃんはイチゴが好きなのか。京ちゃんに「もう、いちご」と言ったら、「ブー」と怒られそうだ。



脱線ばかりしたが、記事を紹介しなくては。京ちゃんの今に至る経過が書かれている。看護師の「人工呼吸器をつけても、家で暮らし、旅行して、楽しく生活している人はいますよ」という一言で、両親は目からうろこが落ちたという。「治療方法や予後は説明で聞いていたが、気管切開でどんな生活になるのか、何の情報も持たず、悲観的なイメージしかなかった。たった一言だけど、あの一言がなかったら、気管切開を選ばないままだった」と両親は振り返る。

家に戻ってから、京香さんは両親と近所の買い物に出かけるようになった。翌年春には、名古屋の南にある知多半島へイチゴ狩りに出かけた。ストレッチャーがなかったので、普通のベビーカーに寝かせ、人工呼吸器は荷物入れに載せた。コスモス観賞や水族館。経験を重ね、行動範囲を広げていった。

「患者を生きる」という連載は、よく見てきたが、ここで京ちゃんと再開できるとは思っていなかった。これからも続く「京ちゃん話」が楽しみだ。

(2015 年 1 月 31 日)